

早春の小さくかわいらしいスギタニルリシジミ

諏訪哲夫

本種は日本全土に分布し、早春のチョウとしてギフチョウと共に多くのチョウ愛好者に昔から愛されているチョウです。しかし静岡県では1960年代までは水窪町、佐久間町の山間部のごく一部の生息地に限られており、なじみのある種類ではありませんでした。

ところが1978年、静岡昆虫同好会会員だった故稲葉 茂さんが富士山西麓の上井出国有林で1頭のオスを発見したため、チョウの分布調査をしている人達を大変驚かせました。本種の幼虫はトチノキの花を食べるとされていたので、富士山にはトチノキが無いから調査しても期待できないという認識があって、探しに行くという発想は全く無かったわけです。富士山からの発見を契機に分布調査が進み、伊豆を除く県内各地の低山地からみつかっています。最近は何体数も多く、分布も拡大しているように思います。しかも富士山の例のようにトチノキの無い所にも広く生息していて、キハダから卵が発見されたわずかな情報はあるものの、本命の食樹は未知のままです。食性をトチノキから別の植物にも広げたことにより、生息域が拡大しているようです。



スギタニルリシジミ：静岡市清水区黒川にて撮影